

国際スポーツ雪かき選手権競技ルール(2023年1月21日改定)

0. はじめに

このルールは基本的に車が通れない人専用の生活路に適用される

1. チーム

- 参加資格は中学生以上とする
- 1チームの人員は3人以上5人以下とする
- 各チームは以下に定める構成メンバーによって3つの部門に分類される
 - ① チームの構成メンバーの全員が中学生：中学生の部
 - ② チームの構成メンバーの全員が高学生：高学生の部
 - ③ ①と②以外の構成メンバーによるチーム：一般の部

2. 競技時間

- 30分を限度として指定されたコースをキレイに雪かきしなければならない
- ただし、チームの判断により時間内で競技を終了し採点を申し出ることができる

3. 活動量計

- メンバー全員が一度は活動量計を装着して雪かきをしなければならない
- ただし、スノーカートやママさんダンプで雪を運ぶ作業する場合は活動量計を装着してはいけない

4. 採点

- 以下の計算式によって総合得点を計算して各部門の順位を決める
総合得点 = A)消費カロリー + B)出来映え点 + C)コース難易度加点

A) 消費カロリー

- どれだけ雪かき作業で汗を掻いたか？を数値化する
- 活動量計に表示された30分間で消費したカロリー (Kcal) を得点とする
- 作業前後の表示を記録して差を計算して得点を求めるものとする

B) 出来映え点

- どれだけキレイに雪かきしたか？を数値化する

出来映え点 = ①道幅の確保 × ②路面の状況 × ③側壁の美しさ + ④階段の数

① 道幅の確保

- 下の表の a+b+c を道幅の確保の得点とする

a.雪かきによって確保できそうな道幅(理想の幅)	b.当日のコースの状況	c.雪かき後の道幅	得点
2人が並んで通れる幅	誰が埋まりながら通った形跡がある	理想の幅を確保できている	3
1人が横になってもう1人が通れる幅	複数人の足跡が見られるが埋まりそうな箇所がある	理想の幅よりも0.5人分の幅が不足している	2
互いにすれ違うのが難しく1人しか通れない幅	埋まらずに通れるだけの通路が確保されている	理想の幅よりも1人分の幅が不足している	1

計算例：「2人が並んで通れる幅」を確保できそうなコースが、当日「複数の足跡が見られるもの埋まりそうな」状況だった。雪かき後「1.5人分の幅」しかなかった場合、 $a+b+c=3+2+1=6$ 点となる

② 路面の状況

- 雪かきした後の路面に残った雪の量に応じて下記の通り配点する

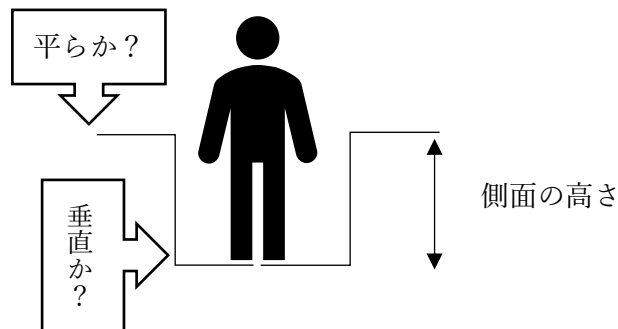
路面の状況	得点
残雪がまったくない	5
残雪はあるもののくるぶしくらいまでである	4
残雪はあるもののかろうじて短靴から雪が入らない状況である	3
短靴を超えて女性用長靴の上部あたりまで埋まるところがある	0
特長靴くらいまで埋まるところがある	-5

③ 側壁の美しさ

- 通路側壁に跳ねのけた雪の状態について下記の通り評価して配点する

側壁の高さ	得点
コースのほとんどで肩（約 130 cm）よりも上に雪を積んでいる	5
コースのほとんどで腰から脇の下くらいまでの高さに雪を積んでいる	4
コースのほとんどで腰（約 80 cm）よりも下の高さに雪を積んでいる	3

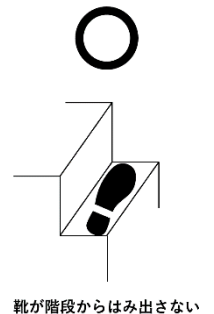
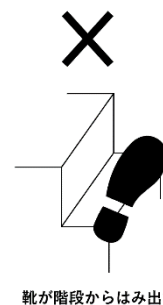
- コースのほとんどで通路の側壁がスコップで削り取られて垂直に立っている場合は 1 点を加算する
- コースのほとんどで通路の側壁上面が平らに削られている場合は 1 点を加算する



④ 階段の数

- 通行人が進行方向と横方向になって上り下りできる階段を製作した場合は 1 段につきコースの斜度 × 0.5 点を加算する

計算例：「斜度 15°」のコースで 10 段製作した場合、 $15 \times 0.5 \times 10 = 7.5$ 点となる



C) コース難易度加点

- どれだけやりにくいコースであるか? を数値化する

コース難易度加点 = ①コース長 × ②コース斜度 ÷ 10

コース長：1メートルにつき 1 点

コース斜度：1°につき 1 点